

平成27年2月

阪本智宏 学位論文審査要旨

主 査 植 木 賢
副主査 北 野 博 也
同 清 水 英 治

主論文

A novel point-of-care system for high-speed real-time polymerase chain reaction testing for epidermal growth factor receptor mutations in bronchial lavage fluids after transbronchial biopsy in patients with non-small cell lung cancer

(非小細胞肺癌患者におけるポイント・オブ・ケア検査としての経気管支肺生検後洗浄液検体中の上皮成長因子受容体遺伝子変異検索のための新規高速PCR法)

(著者：阪本智宏、小谷昌広、高田美也子、千酌浩樹、中本成紀、西井（伊藤）静香、上田康仁、泉大樹、牧野晴彦、唐下泰一、武田賢一、山崎章、矢内正品、田中那津美、井岸正、清水英治)

平成27年 International Journal of Oncology 掲載予定

参考論文

1. Food-borne botulism in Japan in March 2012

(2012年3月に日本で発生した食餌性ボツリヌス症について)

(著者：百瀬愛佳、朝倉宏、北村勝、岡田由美子、上田豊、花原悠太郎、阪本智宏、松村毅、岩城正昭、加藤はる、柴山恵吾、五十君静信)

平成26年 International Journal of Infectious Diseases 24巻 20頁～22頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は非小細胞肺癌における上皮成長因子受容体遺伝子異常の有無を、気管支鏡検査で得られた液性検体を用いて新規超高速PCR法による迅速診断を試みたものである。その結果、高速診断が可能な上、癌細胞含有量の少ない液性検体を用いても実臨床で用いられているPCR-invaderの結果と非常に高い一致性を示すことが証明された。本論文の内容は、進行肺癌の臨床を行う上での課題である、検査から薬剤投与までの時間的遅延を解消するものであり、臨床腫瘍学の分野において明らかに学術水準を高めたものと認める。